

図書館
だより

平成29年(2017年)春 No. 333

- 広島発！児童雑誌「ぎんのすず」の魅力・・・・・・・・・・1面
- 第19回「おもしろその年まんが大賞」入賞者決定！
ユーモアあふれるオリジナルまんが！今年も力作ぞろいです！・・2面
- 4月1日から フェイスブック、はじめます！・・3面
- 図書館司書が紹介するこの1冊！・・・・・・・・・・3面
- この日は何の日？・・・・・・・・・・4面
- 休館日のお知らせ4月～6月・・・・・・・・・・4面

広島発！児童雑誌「ぎんのすず」の魅力

戦後間もなく広島で発行され、全国の子どもたちに愛された児童雑誌「ぎんのすず」をご存じでしょうか。この名前を懐かしく思い出される方もあるかもしれません。「ぎんのすず」は、昭和21年(1946年)8月、被爆によって焦土となった広島の子どもたちのために、教職員有志によって創刊されました。その後、南観音町(現 西区)にあった広島印刷株式会社(後に広島図書株式会社)が、疎開により被爆を免れた印刷機を使い、刊行を引き継ぎます。学年別の月刊誌となった「ぎんのすず」は次第に人気を得て、昭和24年(1949年)6月には、発行部数の総計が120万部に達するほどになりました。

「ぎんのすず」の大きな魅力は、誌面の美しさです。多色刷りの表紙や挿絵に、子どもたちは心を躍らせたことでしょう。刊行から約70年を経た今も鮮やかな誌面からは、物資不足の中で紙やインクを集め、最新の印刷技術を用いて「ぎんのすず」を出版した人々の苦労や情熱が伝わってくるようです。

充実した内容も、「ぎんのすず」の特色です。広島在住の作家に加えて、浜田広介や平塚武二、サトウハチロー、西条八十八ら、当時活躍中の著名な作家や詩人、画家たちが作品を寄せました。読み物や詩といった文芸作品とともに、毎号掲載された漫画の中には、「サザエさん」の連載で注目を集めていた長谷川町子の作品も含まれています。

また、表紙に「教育雑誌」と掲げた「ぎんのすず」は、各教科の学習記事にも多くの誌面を割いています。戦後の新しい教育制度に沿って新設された社会科や、英語、ローマ字を解説したページなど、教員や各分野の研究者が執筆にあたりました。この他にも、海外のニュースやクイズ、読者投稿欄や付録など、子どもたちの多様な好奇心に応えようと、「ぎんのすず」の編集には、様々な工夫がなされたことが伺えます。

「ぎんのすず」は、昭和28年(1953年)6月まで広島で刊行されました。復興へと歩み始めた広島で刊行され、子どもたちに夢や希望を届けた「ぎんのすず」の掲載作品や発行元である広島図書についてなど、今も調査や研究が進められています。ぜひ、「ぎんのすず」をお手に取ってご覧いただき、その魅力に触れてみてください。



中央図書館では、「ぎんのすず」をはじめ、幼児向けの「プレイメイト」、女学生向けの「青空」など広島図書株式会社が発行した雑誌や書籍などを所蔵しています。これらの資料は、3階広島資料室でご覧いただけます。